

<リハビリテーション部の新着情報：2018年11月27日現在>

当法人の理学療法士3名が学会発表を経験しました。

●富野 沙綾 (PT)

脳梗塞後の視覚軸：鏡による軸修正

第30回大阪府理学療法士学会 (口述)

●相原 伸哉 (PT)

麻痺側足関節への重錘負荷歩行訓練で麻痺側足部引っ掛かりが消失した：脳卒中片麻痺例での検討

第30回大阪府理学療法士学会 (口述)

●渡邊美恵 (PT)

急性期病棟での DVT 早期発見への取り組み - 肺塞栓症予防を目指して -

第16回日本神経理学療法学会学術大会 (ポスター)

神経⑤ 第7会場 (12階 1202) 13:20~14:00	
	座長：山田 一貫 (みどりヶ丘病院)
O-77	右被殻出血により足部クリアランス低下を呈した症例：個人因子に応じた環境設定下での課題指向型歩行トレーニング 浦上 慎司 (星ヶ丘医療センター リハビリテーション部)
O-78	脳梗塞後の視覚軸：鏡による軸修正 富野 沙綾 (馬場記念病院 リハビリテーション部)
O-79	麻痺側足関節への重錘負荷歩行訓練で麻痺側足部引っ掛かりが消失した：脳卒中片麻痺例での検討 相原 伸哉 (ベガサスリハビリテーション病院)
O-80	徒手療法を中心に治療を行い麻痺が改善した1症例 福田 志保 (介護老人保健施設パークサイドなごみ)



P-B-8-1 脳損傷 ポスター8

急性期病棟での DVT 早期発見への取り組み - 肺塞栓症予防を目指して -

渡邊 美恵

社会医療法人ベガサス馬場記念病院

Key words / 合併症, 早期発見, 評価方法

【はじめに 目的】
2016年4月～2017年7月の16か月間に、当院でリハビリを行っている入院患者のうち5例が肺塞栓症を発症した。うち1例ではリハスタッフが肺塞栓症発症前に DVT 徴候の存在に気付いていたが、残り4例は呼吸苦で看護師が発見した。今回、リハスタッフが DVT の存在を見逃さないよう取り組んだ。

福田 志保 渡邊 美恵 山田 一貫 相原 伸哉



～感想：学会発表を経験して～

●富野 沙綾 (PT)

・脳梗塞患者の身体の傾きに対して客観的な数値を出し、治療効果や変化を考察し発表しました。発表までに大変だったことは、専門的な分野ではありますが初見で聞いた方でもこの発表で理解が出来、興味を惹かれるように作成していくことが大変でした。発表してみて、多くの方の前で発表することは初めてでしたので緊張もありましたが、それ以上に楽しかったです。また、多くの病院の先生方にアドバイスをいただけて勉強になりました。次の目標は、過去の先輩方の評価を自分なりに改良して作り上げた今回の発表、まだ多くの課題が残っているのでその課題を解決していくと共により再現性の高い評価、治療に繋げていき今後の患者に貢献していきたいです。

・後輩へのメッセージをお願いします。

ひとつの発表を行う中でもたくさんの先輩、他職種、他院の先生方、そして患者、その家族に協力してもらいました。その経験はとても価値のあるもので貴重な経験でした。

このような機会があれば、積極的に参加して行ってほしいです。

●相原 伸哉 (PT)

・今回の発表は、脳卒中の患者様に対して、重錘を用いて意識的に足を持ち上げる訓練を行い、歩行時の足部引っ掛かりが消失したので、考察し発表しました。発表までに大変だったことは、発表の経験があまりなかったので、スライドをわかりやすく正確に伝えることが大変でしたが、先輩や先生方にアドバイスや修正をしていただいて、すごく勉強になりました。発表してみて、発表前に何度も何度も発表練習をしましたが、実際の発表では緊張から練習通りにはいかず、人に伝える難しさを感じました。もっと積極的に発表の場に参加し、経験を積みたいと思いました。次の目標は、今回の発表では重錘を用いましたが、今後も簡便に用いることのできる道具を使用した訓練により、患者様により良いアプローチができるよう発表を通して貢献していきたいです。

・後輩へのメッセージをお願いします。

発表するまでの道のりはすごく大変ですが、必ず自分にとっていい経験になると思うので、一緒に頑張っていきましょう！

●渡邊美恵

この度 第16回日本神経学療法学会でポスター発表を行いました。

参加人数約2000人で、活発な論議や、興味深い講義、シンポジウムがありました。

準備中は、西尾先生（リハビリテーション部部长）をはじめとしたさまざまな方が、助けてくださり、なんとか発表することができました。ほかの病院の方からも、声をかけていた

き、「すごい取り組みですね参考になりました」と言っていただいたことが、うれしかったです。

学会発表は、自分の日々の業務が、形になることです。

参加に伴い、様々な意見や最新の知識を聞くことで、勉強になりますし、また、「これはいつもペガサスで聞いていることだなあ」と改めて自施設のすごさも感じます。

当法人は、学会発表に積極的な風土であり、それを支援していただける体制が整っています。

これからも努力していきたいと思えます。